

区分	基礎分野		
授業科目	論理的表現		
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)		
開講年次	1年次 前期		
学習目標	1.「書く能力」。論理的に明晰な文章を作成する為に、文章の基礎知識及び論証の方法を学ぶ。また、自分の意見を明確に伝え、相手の意思を的確に理解する為に必要な表現力を身につける。 2.「話す力」。論拠を整理し、相手にわかりやすいよう筋道を立てて意見を述べる力を養う。さらに、相手の論旨を的確に理解した上で自らの考えを深め、議論を活発に行うことを目指す。また、敬語の役割を考え、状況に応じて適切に使えるようにする。		
関連科目			
学習内容	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>【技能編】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 敬語(基礎) 2. 敬語(発展) 3. 話し言葉と書き言葉 4. 文の組み立て 5. 視点 6. 文のつなぎ方 7. 意味の限定 8. 言葉の順序 9. 定義・分類の表現 10. 比較・対照の表現 11. 列挙・順序・因果の関係 12. ブレーンストーミング 13. 引用の表現・レポートの書き方 14. 小論文(意見文) </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <p>【知識編】</p> <p>問題な日本語 難読語 言葉の呼称 同音・同訓意義語の使分1 同音・同訓意義語の使分2 同音・同訓意義語の使分3 類義語の使い方 対義語の使い方 言葉の呼応 定型表現・慣用句 四字熟語、仮名遣い・送り仮名の使い方</p> </td> </tr> </table>	<p>【技能編】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 敬語(基礎) 2. 敬語(発展) 3. 話し言葉と書き言葉 4. 文の組み立て 5. 視点 6. 文のつなぎ方 7. 意味の限定 8. 言葉の順序 9. 定義・分類の表現 10. 比較・対照の表現 11. 列挙・順序・因果の関係 12. ブレーンストーミング 13. 引用の表現・レポートの書き方 14. 小論文(意見文) 	<p>【知識編】</p> <p>問題な日本語 難読語 言葉の呼称 同音・同訓意義語の使分1 同音・同訓意義語の使分2 同音・同訓意義語の使分3 類義語の使い方 対義語の使い方 言葉の呼応 定型表現・慣用句 四字熟語、仮名遣い・送り仮名の使い方</p>
<p>【技能編】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 敬語(基礎) 2. 敬語(発展) 3. 話し言葉と書き言葉 4. 文の組み立て 5. 視点 6. 文のつなぎ方 7. 意味の限定 8. 言葉の順序 9. 定義・分類の表現 10. 比較・対照の表現 11. 列挙・順序・因果の関係 12. ブレーンストーミング 13. 引用の表現・レポートの書き方 14. 小論文(意見文) 	<p>【知識編】</p> <p>問題な日本語 難読語 言葉の呼称 同音・同訓意義語の使分1 同音・同訓意義語の使分2 同音・同訓意義語の使分3 類義語の使い方 対義語の使い方 言葉の呼応 定型表現・慣用句 四字熟語、仮名遣い・送り仮名の使い方</p>		
授業時間外学習 (事前・事後)			
評価方法	試験(80点)+平常点(漢字20点)		
教科書	書き込み式 日本語表現ノート 三弥井書店		
参考文献	適宜プリントで配布します。		
講師のコメント	相手が何を根拠に考え、伝えているのか。自分がどのように感じ、表現するのか。他者との交流の上で重要な力を身につけていきましょう。		

区分	基礎分野
授業科目	看護に生かす情報学
回数(単位)	7.5回(1単位15時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	①情報とは何かを知り、看護が取り扱う情報の特徴について理解することができる ②情報を共有するためのコミュニケーションとしての1つであるICTの仕組みを理解することができる ③安全に活用するための情報倫理を理解することができる
関連科目	公衆衛生学・看護に活かす統計学・看護と倫理・関係法規・看護研究
学習内容	1) 情報/情報社会とは ・情報処理とリテラシー ・情報社会の利点と課題 2) 情報社会における倫理 ・情報倫理と著作権 3) 医療・看護における情報 ・個人情報の取り扱い 4) ICTとは ・ITからICTへ: 人を繋げるインターネットとその仕組み ・SNSの普及: マスメディアとソーシャルメディア 5) 情報セキュリティ ・コンピュータ利用のリスクと対策 6) 電子メールを考える 7) 対人認知の情報処理 ・認知心理学からみる情報処理のメカニズム 8) 情報を扱うコミュニケーション ・社会心理学からみる情報の伝達
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	
参考文献	看護情報学(医学書院) エッセンシャル看護情報学(医歯薬出版株式会社)
講師のコメント	デジタル技術により、さまざまな知識や情報が共有され、新たな価値が創造される社会となりました。医療においてもICTが導入される時代へと進んでいきます。看護学生が、看護実践能力と共に安全な情報活用能力を身につけられるよう、基本的な知識と活用方法を学びましょう。

区分	基礎分野
授業科目	看護に活かす物理学
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	物の動きの原理を理解し、看護師として、人体に関連した物理現象や器具に関する動きの基本を把握できること目的とする。
関連科目	基礎看護技術1. 4. 5. 8. 9
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 算数・数学 2. 移動動作に必要な力の加減 3. 単位系と力の単位、力のモーメント 4. 安定・不安定 5. 作用・反作用の法則、摩擦 6. 比重・浮力、圧力の基本知識 7. 空気の圧力、酸素ポンプ、輸液 8. 吸引(ドレナージ) 9. 熱 10. 波、音、耳の構造 11. 光、物の見えるしくみ、パルスオキシメーター 12. 看護における電気 13. 放射線の基礎知識と医療利用 (被ばく防止策)
授業時間外学習 (事前・事後)	医療や看護に関連する物理学の知識です。丸暗記するのではなくて、理解するように努めてください。原理や原則を理解できれば応用も可能となります。学生同士で教え合うことを奨励します(マスクの着用など感染対策も忘れないでください)。
評価方法	筆記試験 (100点)
教科書	ベッドサイドを科学する -看護に活かす物理学- (学研) * 試験時は電卓の使用を認めません
参考文献	看護に必要なやりなおし数学・物理 (照林社 時政孝行著)
講師のコメント	「物理学」と聞くとアレルギー反応を起こす方もいると思います。医療や看護の裏に科学的な背景があることを知り、興味を持てるような授業ができればと思います。なるべく他の科目との関連を示し、国家試験の学習にも役立つようにしたいと考えています。

区分	基礎分野
授業科目	社会学
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	社会は人と人との関係のなかにあります。そして、この「社会」について考えるのが社会学という学問です。この授業ではさまざまな社会学のテーマを横断的に概観していきます。それを通して、社会学の発想を理解すること、社会学の文献を読んだときに理解できるようになることを目指します
関連科目	
学習内容	(1)イントロダクション①:社会学と「社会的想像力」 (2)イントロダクション②身近なテーマで社会学する (3)子どもの社会学 (4)ジェンダーの社会学 (5)アニメ・マンガの社会学 (6)メディアの社会学 (7)社会問題の社会学 (8)学校教育の社会学 (9)働くこと of 社会学 (10)医療の社会学①:病の語り (11)医療の社会学②:病人と医師 (12)医療の社会学③:家族の役割と介護 (13)医療の社会学④:教育の医療化 (14)医療の社会学⑤:技術と医療の発展 (15)試験とまとめ:社会学の文献を読む
授業時間外学習 (事前・事後)	事前学習:事前に課題がある場合には、その課題を完成させてくる。 事後学習:授業で習ったことを復習し、身近な出来事と結び付けて理解を深める。
評価方法	筆記試験(70点)+提出物(30点)=計100点満点
教科書	なし
参考文献	授業時にその回ごとの参考文献を提示します。
講師のコメント	毎回授業開始時に配布するプリントを用いて授業を進めていきます。授業では社会学の考え方を理解するためのワークやディスカッションを行います。なお、受講者の関心に応じて学習内容は変更する場合があります。

区分	基礎分野
授業科目	英語 1
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位 30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	①医療・看護に関する英語語彙を習得する。 ②医療現場で使われる会話文を理解できるようにする。 ③医療・看護に関する英文を理解できるようにする。
関連科目	
学習内容	第1回 ガイダンスとオリエンテーション 第2回 自己紹介 / 人前で話す(英語) バイタルサインの学習 第3回 Unit 1 Hospital Departments 病院の科 第4回 病院でのさまざまな仕事 第5回 Unit 2 Application Forms 病院の書類記入 患者情報を尋ねる 第6回 スピーキング1形式の紹介 スピーキングの練習 第7回 Unit 3 Parts of the Body 体の部位を学ぶ(外部) 体の部位を学ぶ(内部) 第8回 体の一部の病気や症状 文法:現在進行形 第9回 Unit 4 Illnesses 症状と病気 第10回 病名 痛み(ache)と苦痛(pain)の使用 第11回 文法:動詞 (Have and Be verbs) 第12回 スピーキング2形式 スピーキング作成と実践 第13回 復習 スピーキング1と2まとめと練習 筆記試験のヒント 第14回 スピーキングテスト 第15回 筆記試験
授業時間外学習 (事前・事後)	予習:教科書の指定箇所
評価方法	出席率と授業参加度:20% スピーキングテスト:30% 筆記テスト:50% 合計:100%
教科書	ホスピタル・イングリッシュ VITAL SIGNS (Revised Edition) NAN'UN DO
参考文献	
講師のコメント	この授業では、看護・医療英語の教科書、教科書解説プリント、看護関連の教育ビデオクリップを使用します。看護・医療用語・表現の習得を主な目標としており、分からない単語や表現は各自で調べていただきますので、各自で辞書(紙辞書または電子辞書)をご持参ください。授業の準備方法や授業の進め方については、初回オリエンテーションで説明します。

区分	基礎分野
授業科目	英語 2
回数(単位)	7.5回(テスト含む) (1単位15時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	①医療・看護に関する英語語彙を習得する。 ②医療現場で使われる会話文を理解できるようにする。 ③医療・看護に関する英文を理解できるようにする。
関連科目	
学習内容	<p>第1回 Unit 5 Daily Routine 日々の習慣に関する質問をしたり答えたりする / 病院の規則 / 時間表現の前置詞</p> <p>第2回 Unit 6 Hospital Objects 可算名詞と不可算名詞 / 病院の器具および機能</p> <p>第3回 Unit 7 Locations of Hospital Objects 場所を尋ねたり、与えたりする方法を学ぶ(前置詞)/Unit 8 Hospital Directions and Instructions / 病院内の場所への道順を教える</p> <p>第4回 Let me make an appointment for your test 患者の予約 / さまざまな種類の医療検査 Unit 10 and Unit 11 Chat with Patient/Taking Medical History 患者との会話 / 患者の病歴の聴取方法に慣れる Unit 12 Hospital Procedures 手術前、手術当日、手術後に投与する Video Clip (Basic Conversation in a Hospital) 病院での基本的な会話(3つの状況) 翻訳と制作 Speaking 3</p> <p>第5回 Medicine: Giving and Explaining Medicine to Patients 患者に薬を与える</p> <p>第6回 Speaking 4 Formatting/ Practice 復習 / スピーキング3と4まとめと練習 / 筆記試験のヒント</p> <p>第7回 スピーキングテスト</p> <p>第8回 筆記試験</p>
授業時間外学習(事前・事後)	予習:教科書の指定箇所
評価方法	出席率と授業参加度:20% スピーキングテスト:30% 筆記テスト:50% 合計:100%
教科書	ホスピタル・イングリッシュ VITAL SIGNS (Revised Edition) NAN'UN DO
参考文献	
講師のコメント	この授業では、看護・医療英語の教科書、教科書解説プリント、看護関連の教育ビデオクリップを使用します。看護・医療用語・表現の習得を主な目標としており、分からない単語や表現は各自で調べていただきますので、各自で辞書(紙辞書または電子辞書)をご持参ください。授業の準備方法や授業の進め方については、初回オリエンテーションで説明します。

区分	基礎分野
授業科目	教育学
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育にかかわる自らの経験を相対化し、批判的に見つめ直す態度を養う。 2. 教育の形式や内容が歴史的に変化してきた様子を理解する。 3. 今日の教育をめぐる具体的な問題状況を考察し、自分なりの意見を形成する。 4. 看護職としての実践およびキャリアに必要な教育学の理論について理解する。
関連科目	
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション—なぜ教育学を学ぶのか？ ②教育の歴史と制度(1)—教育思想の萌芽 ③教育の歴史と制度(2)—「子ども」の発見 ④教育の歴史と制度(3)—公教育制度の成立とその理念 ⑤教育の現代的課題(1)—教育格差、不登校 ⑥教育の現代的課題(2)—いじめ、学校事故 ⑦教育の現代的課題(3)—ジェンダー、子どもの貧困 ⑧中間試験・まとめ ⑨特別なニーズをもつ子どもと向き合う(1)—障害をかかえる子ども ⑩特別なニーズをもつ子どもと向き合う(2)—外国にルーツをもつ子ども ⑪発達とキャリア(1)—人間の発達段階とライフサイクル ⑫発達とキャリア(2)—看護師としてのキャリア発達 ⑬学習の原理と指導の実践(1)—看護師としての学習 ⑭学習の原理と指導の実践(2)—患者指導に向けて ⑮期末試験・まとめ
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	提出物・受講態度(20%)／中間試験(30%)／期末試験(50%)
教科書	なし
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・木村元・小玉重夫・船橋一男, 2019, 『教育学をつかむ(改訂版)』有斐閣。 ・中井俊樹・小林忠資(編), 2022, 『看護のための教育学 第2版』医学書院。など
講師のコメント	授業の前半では、教育学の基礎的知識として教育の歴史や制度、現代的課題について学びます。授業の後半では、より実践的な関心に引き付け、看護職として生きていくために必要な具体的知識を学びます。学生の皆さんは、誰もが「教育」という営みの当事者です。本授業では、教育にかかわる自らの経験を振り返り、批判的に見つめ直ししながら、今後役立つ知識や態度を身に付けることを目指します。

区分	基礎分野
授業科目	心理学
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	この授業では、人の”こころ”について、心理学における様々なアプローチから理解を深めていきます。自分自身や他者との関係の中で、どのような心の動きが生まれ、どのようなことが起こるのかを、心理学的な観点から理解し、説明できるようになることを目指します。また、心の危機やメンタルヘルスに関する学びを通じて、看護の仕事に生かせる心理学の知識を得ることも目標です。
関連科目	
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 発達心理学(1):乳児期から幼児期 3. 発達心理学(2):児童期から青年期 4. 発達心理学(3):成人期から老年期 5. 生理心理学・神経心理学:脳と心のつながり 6. 学習心理学・知覚心理学:行動の習得・変化、感覚と意識のつながり 7. 認知心理学:対象の認識・記憶・処理のメカニズム 8. 社会心理学(1):自分と他者との心の相互作用 9. 社会心理学(2):集団における社会行動 10. 産業・組織心理学:働くことにまつわる心理 11. パーソナリティ心理学:性格の測り方、分類、形成や発達 12. 臨床心理学(1):臨床心理学と心理職が働く場について、心理検査 13. 臨床心理学(2):心理療法、臨床心理学的アプローチ 14. 看護に生かす心理学 15. テスト
授業時間外学習(事前・事後)	要復習
評価方法	小テスト計3回(30%)と期末テスト(70%)
教科書	講師作成のレジュメ
参考文献	ステップアップ心理学シリーズ 心理学入門 こころを科学する10のアプローチ(板口典弘・相馬花恵 著、2017年、講談社) 新体系 看護学全書 基礎科目 心理学(田中一彦・長田久雄 編、2006年、メジカルフレンド社)
講師のコメント	心理学は、人の本質を科学的に理解しようとする学問であり、すべての分野に「人間」が関係します。私たちが生きていく上で、自分自身・および他者との関わりは、避けて通り難いものです。心理学の理解を深めることで、今後の看護の仕事だけでなく、日常での対人関係や自己理解にも、生かせる所があるのではないかと思います。

区分	基礎分野
授業科目	倫理学
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	さまざまな倫理的問題の所在とその解決に取り組む倫理学説を学ぶことを通じて、物事を考えるときに役立つ筋道の立て方を確かめるとともに、自分なりの価値観を探究するための手がかりを得る。
関連科目	心理学 社会学
学習内容	01: 倫理学とは？ 02: 倫理学の歴史: 徳倫理学 & メタ倫理学 03: 社会契約説(古典)①: 自然状態とは何か？ 04: 社会契約説(古典)②: 主権は何の役に立つのか？ 05: 社会契約説(古典)③: 法は何の役に立つのか？ 06: 人間と計算機械 07: 功利主義①: 最大多数の最大幸福とは何か？ 08: 功利主義②: 嘘を吐いてもよいのか？ 09: 義務論①: 自律とは？ 10: 義務論②: 嘘を吐いてもよいのか？ 11: 社会契約説(現代): ジョン・ロールズの正義論 12: 社会正義①: 倫理と利害関係者 13: 社会正義②: 仕組みとしての倫理 14: 生命倫理 15: まとめ
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	レポート(60点) 小テスト2回(40点)
教科書	『入門・倫理学』 赤林朗・児玉聡(編) 勁草書房
参考文献	『マンガで学ぶ生命倫理』 児玉聡・なつたか 化学同人 その他、授業中に紹介する。
講師のコメント	倫理的に正しいことが社会のなかで安定して行われるためには、それが人それぞれの心がけに任せられるというのではなく、倫理の担い手たちがそれぞれの利害や立場を大切にしながらも、その違いに応じて無理なく役割分担できる仕組みとして組み立てられる必要があります。そのことについて学んでいきます。

区分	基礎分野
授業科目	保健体育
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期～後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各競技を通してチームワークを育てる 2. チームスポーツを通して、個々の技能の上達とチームでの役割を自覚し、責任をもって参加協力する姿勢を養う 3. 審判等の経験により、知識を深めると同時に公正な判断、試合の運営を身につける 4. 実技を通して、安全に配慮し、お互いの礼節を学ぶ
関連科目	
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 競技の実技を通して、それぞれのルールを理解し、チームプレーを行う <ol style="list-style-type: none"> 1) ソフトバレーボール 2) バドミントン 3) インディアカ 4) ドッジボール
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	実技試験 (40点) 平常点 (60点)
教科書	
参考文献	
講師のコメント	実技の授業を通して礼節、公正さ、思いやり、協調性を学ぶと同時に自ら考え、自ら判断・行動できる能力を育てたいと考えています。

区分	基礎分野
授業科目	音楽
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次後期
学習目標	1. 集団における協調性を身につける 2. 自らの目標に向かって努力する姿勢を育てる 3. 音楽により情緒的な感性を高める
関連科目	
学習内容	1. ギター・マンドリンなどの楽器演奏の方法を学び合奏する 1)校歌 2)蛍の光または学生の希望曲 3)仰げば尊し 2. 校歌の合唱
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	実技100点満点
教科書	なし
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学1
回数(単位)	6回 + 3講師でテスト1回 3講師で1単位30時間
開講年次	1年次 前期
学習目標	恒常性維持の調節機能である神経性調節として、脳と神経の構造と機能、伝達について理解できる。
関連科目	フィジカルアセスメント、成人看護学方法論4、疾病論4・6
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 恒常性維持のための調節機構 2. 自律神経(神経性調節) 3. 情報を得る <ol style="list-style-type: none"> 1) 見るということ 2) 触れる感じ 3) 匂う 4) 味わう 5) 傾きを知る 6) 痛み 7) 伝達と知覚 4. ホメオスタシスを守る活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 随意運動を起こす神経 2) 随意運動の指令を伝える伝導路 3) 精神活動 4) ストレスとホメオスタシス
授業時間外学習(事前・事後)	情報受容の仕組み、情報伝達と処理の仕組み、内部環境維持・調節の仕組みを予習すること
評価方法	筆記試験(40点満点)
教科書	人体の構造と機能① 解剖生理学 (メジカルフレンド社) 看護 形態機能学(日本看護協会出版会) 看護につなげる 形態機能学 (メジカルフレンド社) 生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)
参考文献	
	脳には、大きく二つの働きがあると言えます。一つは体を調節すること。もう一つは考えるということでしょうか。さて、あなたはどのようにして思考していますか？何を基に行っていますか？一つ一つ、じっくりと解き明かしていきましょう！

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学1
回数(単位)	4回 + 3講師でテスト1回 3講師で1単位30時間
開講年次	1年次 前期
学習目標	恒常性維持の調節機能である液性調節として、ホルモンの役割・種類とはたらきについて理解できる。
関連科目	フィジカルアセスメント、成人看護学方法論3、疾病論2・6
学習内容	<p>1. 恒常性のための調節機構 液性調節(ホルモン)</p> <p>1)ホルモンの作用機序</p> <p>2)ホルモン分泌の調節</p> <p>3)恒常性維持のためのホルモンのはたらき</p> <p>①体液量の調節</p> <p>②代謝速度の調節</p> <p>③蛋白合成の促進</p> <p>④血糖の調節</p> <p>⑤血中ナトリウム・血中カリウムの調節</p> <p>⑥血中カルシウムの調節</p> <p>2. ストレスと恒常性の維持</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	内部環境維持・調節の仕組みを予習すること
評価方法	筆記試験(30点満点)
教科書	<p>人体の構造と機能① 解剖生理学 (メジカルフレンド社)</p> <p>看護 形態機能学(日本看護協会出版会)</p> <p>看護につなげる 形態機能学 (メジカルフレンド社)</p> <p>生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)</p>
参考文献	
	恒常性の維持のための、液性調節について学びましょう。ホルモンを通して人体の不思議や素晴らしさを理解しましょう。また身近にあるストレスに着目し、ストレスと身体症状の関連を、グループワークを通して一緒に考えていきましょう。

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学1
回数(単位)	5回(3講師でテスト1回 含む) 3講師で1単位30時間
開講年次	1年次 前期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生きているということと日常生活行動との関連を理解できる。 2. 解剖生理学的用語を理解できる。 3. 細胞の構造とはたらきを理解できる。 4. 内部環境と外部環境とは何かを説明できる。 5. 生体の防御機構であるからだの仕組み(非特異的防御機構と特異的防御機構)について理解する。
関連科目	看護形態機能学2、微生物学、疾病論3
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護形態機能学を学ぶ意義 2. からだの基礎知識 3. 細胞・組織・器官 4. 個体と外界から区別するもの一皮膚 5. 生体の防御機構と免疫 6. ケーススタディ
授業時間外学習 (事前・事後)	看護形態機能学第1章を読んで授業へ臨むこと
評価方法	筆記試験(30点満点)
教科書	看護形態機能学(日本看護協会出版会) 人体の構造と機能① 解剖生理学(メジカルフレンド社) 看護につなげる 形態機能学(メジカルフレンド社) 生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)
参考文献	はたらく細胞
講師のコメント	高校で生物を履修していない人は、講義前にあらかじめテキストの該当する範囲を読んでおくと理解しやすいです。

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学2
回数(単位)	15回(テスト1回を含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内部環境の恒常性を維持する要素を理解できる 2. 体液の分類とその構成、体液移動のメカニズムを理解できる 3. 血漿のPH維持の重要性と恒常性維持のメカニズムを理解できる 4. 動脈血ガス分圧の正常値を理解できる 5. 血糖の恒常性維持のメカニズムを理解できる 6. 体温調節のメカニズムを理解できる
関連科目	基礎看護技術1 成人看護学方法論1、3 疾病論3
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体液の分類と量 <ol style="list-style-type: none"> 1) 体液の区分と移動 2) 体液の移動のメカニズム 3) 水分出納 2. 体液の電解質 3. 血漿のPH <ol style="list-style-type: none"> 1) 恒常性維持のための酸塩基平衡 2) 腎臓・肺による恒常性維持 4. 動脈血の酸素分圧 5. 血漿の糖分 6. 体温 7. 流通の媒体-血液 8. 流通路-血管・リンパ管 9. 流通の原動力 10. ケーススタディ <ul style="list-style-type: none"> 脱水、出血、血圧の変動 <p>【演習:ジグソー法によるグループワーク】</p>
授業時間外学習(事前・事後)	看護形態機能学と解剖生理学の教科書の該当するページを読み込んで授業に臨むこと
評価方法	筆記試験、課題 あわせて 100点満点
教科書	看護形態機能学(日本看護協会出版会) 人体の構造と機能① 解剖生理学 (メジカルフレンド社) 生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)
参考文献	
講師のコメント	<p>高校までの生物学や化学の学びが土台になります。 流通路、流通の原動力の単元では課題を出します。 学習困難と感じたら自己学習と講義時間外をうまく活用し講師や友人へ自らきく姿勢が大切です。一緒に学習し学ぶ楽しさを感じましょう。</p>

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学3
回数(単位)	7回 +3講師でテスト1回 (3講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動くということを通して、骨、関節、筋肉の構造と機能を理解できる。 2. 聞く、話すということを通して、言語的コミュニケーションに必要な器官の構造と機能を理解できる 3. 風呂に入ることに関するからだのしくみを理解できる
関連科目	看護形態機能学1・2 疾病論4 基礎看護技術1 成人看護学方法論4
学習内容	<p>『動く』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 骨・骨格と5つの機能 2. 神経から筋への指令と筋の収縮 3. 意図的な運動～随意運動～ 4. 意図的でない運動～中脳反射～ 5. 日常生活での基本的動き <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢 ・立位の保持 ・関節可動域 歩く、つまむ、表情 6. ケーススタディ 骨折 <ul style="list-style-type: none"> 関節可動域(演習:グループワーク) <p>『話す・聞く』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 声を出す 2. 聞く 3. 聞いて話す <p>『風呂に入る』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 垢を落とす 2. 皮膚と付属物 3. 皮膚・粘膜の血管と神経 4. 温まる
授業時間外学習(事前・事後)	ケーススタディ:「動く」「話す・聞く」「風呂に入る」に関連する事例課題
評価方法	筆記試験(50点満点)
教科書	<p>人体の構造と機能① 解剖生理学 (メジカルフレンド社)</p> <p>看護 形態機能学(日本看護協会出版会)</p> <p>看護につなげる 形態機能学 (メジカルフレンド社)</p> <p>生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)</p>
参考文献	
講師のコメント	<p>からだ全体を移動させること、あるいはからだの一部を動かすことができなくなったら、私たちの生活はどうなるでしょう。食事をとることやトイレに行くことなど、すべての生活に影響します。また、人が生活する上で欠かせないコミュニケーションは、話し手と聞き手がいて成り立つものです。このように、皆さんが生活している中で身近な「動くこと」「会話すること」「お風呂に入ること」について、からだの機能と仕組みを学び理解する科目です。学習していく内容を、自分のからだに置き換えながら、興味をもって学んでいきましょう。</p>

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学3
回数(単位)	6回(3講師でテスト1回を含む) 3講師で1単位30時間
開講年次	1年次 前期
学習目標	1. 生命維持に直結する「息をする」という日常生活行動に関するからだの仕組みを理解する
関連科目	看護形態機能学1、2 基礎看護技術1 フィジカルアセスメント 成人看護学方法論1 疾病論1
学習内容	1. 息をするとは 2. 息をするための器官の名称と構造 3. 息をするための器官の機能 4. 息をするための運動 5. 息をする運動の神経支配 6. ガス交換 7. ケーススタディ 【演習：肺気腫事例 グループワーク】
授業時間外学習 (事前・事後)	該当する看護形態機能学と解剖生理学の教科書を講義前・後に読んでおくこと
評価方法	筆記試験(35点満点)
教科書	人体の構造と機能① 解剖生理学 (メジカルフレンド社) 看護 形態機能学(日本看護協会出版会) 看護につなげる 形態機能学 (メジカルフレンド社) 生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)
参考文献	
講師のコメント	「息をする」ことは、私達の日常生活の中でも最も意識されずに行われる動作です。息は無意識のうちに調節され、眠っている間も一定のリズムで行われていますが、自分の意思で調節することが可能です。生命維持に直結するからだの機能と仕組みを演習を通して一緒に学んでいきましょう。

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学3
回数(単位)	2回+3講師でテスト1回(3講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	日常生活行動である「子どもを生む」ために必要な器官とその働きを学ぶ
関連科目	疾病論5 母性看護学方法論1
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「子どもを生む」ための体のしくみ <ol style="list-style-type: none"> 1) 男性生殖器 2) 女性生殖器 2. 男女の違いはどのようにできるのか <ol style="list-style-type: none"> 1) 遺伝による性差の決定 2) ホルモンの働き 3. 「子どもを生む」ためのしくみ <ol style="list-style-type: none"> 1) 排卵 2) 射精 3) 性交・受精・妊娠 4. 基礎体温とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 月経 2) 性周期とホルモン
授業時間外学習(事前・事後)	看護形態機能学と解剖生理学の教科書の該当するページを読み込んで授業に臨むこと
評価方法	筆記試験(15点満点)
教科書	看護形態機能学(日本看護協会出版会) 人体の構造と機能① 解剖生理学(メジカルフレンド社) 生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)
参考文献	
講師のコメント	疾病論5、母性看護学と関連が深い科目です。2回しか授業がありませんので、予習・復習が大切になります

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学4
回数(単位)	6回+2講師でテスト1回 (2講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活行動「トイレに行く」に関するからだのしくみを理解できる。 2. 日常生活行動「眠る」に関するからだのしくみを理解できる。
関連科目	基礎看護技術2. 4
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活行動「トイレに行く」 <ol style="list-style-type: none"> 1) 排尿 <ol style="list-style-type: none"> (1) 尿意を感じる、排尿 (2) 尿の生成と体液量の調節 2) 排便 3) ケーススタディ(便秘・尿失禁) (演習:ジグソー法によるグループワーク) <ol style="list-style-type: none"> 4) 自分の排泄物を測定・観察し生活との関連を推察 (演習:ジグソー法によるグループワーク) 2. 日常生活行動「眠る」 <ol style="list-style-type: none"> 1) 覚醒と睡眠 2) 人はなぜ眠くなるのか 3) 眠り 4) ケーススタディ
授業時間外学習 (事前・事後)	毎回の講義前・後:必ず講義内容の予習および復習
評価方法	筆記試験(40点満点)
教科書	看護形態機能学(日本看護協会出版会) 人体の構造と機能① 解剖生理学 (メジカルフレンド社) 生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)
参考文献	
講師のコメント	排泄物(便・尿)は、その人の生活状況が推測できます。自身の排泄状況の観察から体のしくみを理解しよう。

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学4
回数(単位)	9回(2講師でテスト1回を含む)2講師で1単位30時間
開講年次	1年次 前期
学習目標	1.「食べる」に関するからだのしくみを理解できる
関連科目	看護形態機能学1・2、基礎看護技術2
学習内容	<p>1. 日常生活行動「食べる」</p> <p>1) 食欲</p> <p>2) 食行動</p> <p>3) 咀嚼し味わう</p> <p>4) 飲み込む(嚥下)</p> <p>5) 消化と吸収</p> <p>6) ケーススタディ 【演習:グループワーク】 肝硬変、膵炎、胆石症、経管栄養法など</p> <p>7) 血糖値測定 【演習:グループワーク】</p> <p>消化器系の白地図【演習:模型を用いたグループワーク】</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	該当範囲の教科書を読んで講義内容の予習・復習 ケーススタディ:「食べる」の事例課題
評価方法	筆記試験+課題(60点満点)
教科書	看護形態機能学(日本看護協会出版会) 人体の構造と機能① 解剖生理学(メヂカルフレンド社) 生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)
参考文献	
講師のコメント	日常生活における『食べる』という行動の体のしくみについて、模型や演習を通して学んでいきます。 基礎看護技術2にも関連していくため、しっかりと予習・復習をして臨みましょう。

区分	専門基礎分野
授業科目	生化学
回数(単位)	15回(テスト含む)(1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	生体を構成している物質及び物質代謝・エネルギー代謝の仕組みを理解する。
関連科目	
学習内容	<p>【生体を構成する物質とその代謝について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体の化学の基礎知識 ・細胞の構造と機能 ・糖質について ・脂質について ・タンパク質について ・栄養素の消化と吸収 ・三大栄養素の代謝について <p>2018年教科書の改訂前の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体内の水について ・血液について ・尿について <p>*教科書の改定や進行状況により一部変更あり。</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	人体の構造と機能 [2] 生化学 (医学書院)
参考文献	他の生化学の教科書も参考してください。
講師のコメント	からだが何でできているのか、からだの中でどのような代謝が起こっているのか、看護・医療を学ぶ上で最も基本となる科目です。他の科目を理解する上でも、非常に大切な科目ですので、しっかりと理解して、身につけてもらいたと思います。

区分	専門基礎分野
授業科目	病態生理学
回数(単位)	7回+2講師でテスト1回 (2講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	病因と病変の特徴を知る
関連科目	
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病を引き起こす内的、外的誘引 2. 細胞や組織に生じる変化 <ul style="list-style-type: none"> ・退行性病変(萎縮、変性、壊死) ・過形成 ・再生と修復 ・循環障害(傍側循環、血栓、塞栓、DIC) ・炎症(化膿性炎症、肉芽腫性炎症) ・腫瘍(癌腫、肉腫、転移……ウィルヒョウ、シュニッツラー、クルケンベルグ) 3. 異常状態に影響する個体の条件 <ul style="list-style-type: none"> ・代謝異常(痛風、糖尿病) ・免疫反応とアレルギー(免疫病理学、抗原・抗体、アレルギー、自己免疫、移植免疫) ・先天異常(遺伝、奇形) ・老化
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(50点満点)
教科書	疾病の成り立ち① 病態生理学 メディカ出版
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	病態生理学
回数(単位)	8回+2講師でテスト1回 (2講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合のさまざまな症状・徴候のメカニズムを理解する。 2. 主な症状・徴候のメカニズムと、観察、検査、治療を関連させることができる。
関連科目	看護形態機能学 フィジカルアセスメント
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体液の異常が及ぼす生体反応のメカニズム・体液管理・輸液管理 2. 症状の原因、起こりうる生体反応、観察点(検査データを含む)、治療 <ol style="list-style-type: none"> 1)腹水 2)浮腫 3)貧血 チアノーゼ 出血傾向 4)呼吸困難 胸水 5)ショック 6)意識障害 7)脱水 8)疼痛 3. 人工呼吸器が生体に及ぼす影響
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(50点満点)
教科書	疾病の成り立ち① 病態生理学 メディカ出版
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論1
回数(単位)	7.5回+テスト1回 (1単位15時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	呼吸器疾患の病態生理、治療検査について述べるができる
関連科目	看護形態機能学3 成人看護学方法論1 フィジカルアセスメント
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肺がんの病態生理、検査・治療 気管支鏡検査 胸腔ドレナージ 手術療法(肺切除術) 薬物療法(塩酸モルヒネ) 2. COPDの病態生理、検査・治療 肺機能検査 スパイログラム 動脈血ガス分析 3. 気管支喘息の病態生理、検査・治療 薬物療法(気管支拡張剤 ステロイド) 4. 肺炎・間質性肺炎の病態生理、検査・治療 5. 肺結核の病態生理、検査・治療 6. インフルエンザの病態生理、検査・治療 7. 気胸の病態生理、検査・治療
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	成人看護学2(呼吸器) (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論2
回数(単位)	7回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	内分泌系疾患の病態生理、治療、検査について述べるができる
関連科目	生化学 栄養学 看護形態機能学4
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 糖尿病の病態生理、検査・治療 ブドウ糖負荷試験 食事療法 運動療法 薬物療法 2. メタボリックシンドロームの病態生理、検査・治療 高脂血症、高血圧、肥満、動脈硬化 血糖 血中脂肪 血圧 体重 3. 痛風の病態生理、検査・治療 4. 甲状腺機能亢進症の病態生理、検査・治療 甲状腺機能摘出術 アイソトープ療法
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(50点満点)
教科書	成人看護学6(内分泌・代謝)(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論2
回数(単位)	4回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	消化器系疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学4 成人看護学方法論2 フィジカルアセスメント
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 胃がんの病態生理、検査・治療 内視鏡検査 上部消化管造影 血液検査 手術療法(胃切除術) 2. 大腸がんの病態生理、検査・治療 イレウスとの関連 内視鏡検査 腫瘍マーカー 減圧療法(イレウスチューブ) 手術療法(直腸手術) 3. 肝硬変の病態生理、検査・治療 肝炎 肝がんとの関連 肝炎ウイルスマーカー 肝生検 インターフェロン療法 内視鏡硬化療法 肝動脈塞栓術・動注療法 経皮的エタノール注入療法 SB チューブ 4. 胃・十二指腸潰瘍の病態生理、治療・検査
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(25点満点)
教科書	成人看護学5(消化器) (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論2
回数(単位)	4回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	消化器系疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学4 成人看護学方法論2 フィジカルアセスメント
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 胆石症の病態生理、治療・検査 排泄性胆嚢造影法 ERCP 経皮経肝的胆道ドレナージ 腹腔鏡下手術 2. 膵炎の病態生理、治療・検査 3. 乳がんの病態生理、治療・検査 4. 食道がんの病態生理、治療・検査 食道再建術
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(25点満点)
教科書	成人看護学5(消化器) (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論3
回数(単位)	7回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	循環器系(心血管)疾患の病態生理、治療、検査について述べるができる
関連科目	看護形態機能学1 成人看護学方法論3
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心不全の病態生理、検査・治療 不整脈との関連 X線検査(CTR) 心電図 心エコー スワングアンツカテーテル ペースメーカー 2. 心筋梗塞の病態生理、検査・治療 心タンポナーデ 不整脈との関連 血清酵素 心電図 負荷心電図 心エコー 心臓カテーテル法 PTCR PTCA スワングアンツカテーテル法 中心静脈圧 手術療法(冠動脈バイパス術) 人工心肺 IABP 除細動器 薬物療法(降圧剤 強心剤 血管拡張剤 抗不整脈薬 抗血栓薬) 3. 狭心症の病態生理、検査・治療(薬物療法) 4. 僧房弁閉鎖不全症・狭窄症の病態生理、検査・治療 5. 大動脈弁閉鎖不全症・狭窄症の病態生理、検査・治療 6. 大動脈瘤の病態生理、検査・治療 7. 閉塞性動脈硬化症の病態生理、治療・検査
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(50点満点)
教科書	成人看護学3(循環器) (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論3
回数(単位)	4回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	循環器系(腎)疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学1. 4 成人看護学方法論4
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性腎不全の病態生理、検査・治療 尿検査 腎生検 腎機能検査(糸球体濾過 腎血流量 PSP試験) 画像診断(腎盂造影 シンチ) 血液透析(シャント) 腹膜透析 2. 急性腎不全の病態生理、検査・治療 3. 急性糸球体腎炎の病態生理、検査・治療 4. 慢性糸球体腎炎の病態生理、検査・治療 5. 糖尿病性腎炎の病態生理、検査・治療 6. 腎硬化症の病態生理、検査・治療
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(25点満点)
教科書	成人看護学8(腎) (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論3
回数(単位)	4回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	1. 血液疾患の病態生理、治療検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学1 成人看護学方法論2
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 白血病の病態生理、検査・治療 2. リンパ腫の病態生理、検査・治療 3. 鉄欠乏性貧血の病態生理、検査・治療 4. 出血傾向のある疾患の病態生理、検査・治療
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(25点満点)
教科書	成人看護学4(血液・造血器) (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論4
回数(単位)	8回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	運動器系疾患の病態生理、治療、検査について述べるができる
関連科目	看護形態機能学3 成人看護学方法論4
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脊椎・脊髄損傷の病態生理、検査治療 神経学的検査(運動・知覚・反射) 脊髄造影 筋電図 神経伝達速度 2. 変形性関節症の病態生理、検査治療 関節鏡 THA TKA 3. 骨折の総論、病態生理(上肢 大腿骨頸部) 骨折の治療 ギプス療法 牽引療法(介達牽引 直達牽引) 4. 脱臼・捻挫の病態生理、検査治療 5. 末梢神経の損傷の病態生理、検査治療 6. 椎間板ヘルニアの病態生理、検査治療 7. 慢性関節リウマチの病態生理、検査治療 8. 運動器系疾患の治療 注射療法(関節内注射 神経ブロック) 骨・関節の手術 装具
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(50点満点)
教科書	成人看護学10(運動器)(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論4
回数(単位)	4回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	脳神経系疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学2 成人看護学方法論4 フィジカルアセスメント
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳梗塞の病態生理、検査・治療 CT MRI 神経学的所見の見方 薬物療法 2. 筋萎縮性側索硬化症の病態生理、検査・治療 重症筋無力症、進行性筋無力症との相違 筋電図検査 末梢神経伝導検査 3. 認知症の基礎知識
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(30点満点)
教科書	成人看護学7(脳神経)(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論4
回数(単位)	3回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	脳神経系疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学2 成人看護学方法論4 フィジカルアセスメント
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳出血の病態生理、検査・治療 CT MRI 神経学的所見の見方 手術療法(開頭術 VPシャント) 脳室ドレナージ 2. くも膜下出血の病態生理、検査・治療 3. 硬膜外(下)血腫の病態生理、検査・治療
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(20点満点)
教科書	成人看護学7(脳神経)(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	微生物学
回数(単位)	7.5回 (テスト1回を含む) (1単位15時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	1. 病原微生物の特徴、病原微生物が生体に及ぼす影響と生体の反応、その予防を理解する。
関連科目	看護形態機能学2 基礎看護技術5
学習内容	1. 微生物学の基礎 1)細菌の性質と主な病原微生物 2)真菌の性質と主な病原微生物 3)原虫の性質と主な病原微生物 4)ウィルスの性質と主な病原微生物 2. 感染とその防御 1)感染と発病 2)滅菌と消毒 3)生体防御機構(免疫) 4)感染症の予防 3. 演習 1)手指衛生実習(手洗い 消毒 滅菌) 2)基礎の細菌検査の実際(MRSA VRE MDRP)
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	薬理学
回数(単位)	7.5回 (1単位15時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	薬物が生体の機能に及ぼす影響・治療的応用及び管理について理解する。
関連科目	基礎看護技術9
学習内容	<p>薬理学総論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物治療の概念 2. 薬物の作用(効果と有害作用)と影響要因 3. 薬物の適正な利用方法 安全な管理・使用 医薬品添付文書の読み方 処方箋と処方の実際 <p>薬理学概論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 抗感染症薬 2. 抗がん薬 3. 免疫治療薬 4. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 5. 末梢神経作用薬 6. 中枢神経作用薬 7. 心臓・血管系に作用する薬物 8. 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物 9. 物質代謝に作用する薬物 10. 救急の際に使用される薬物 11. 生物学的製剤・薬物中毒とその処置
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	臨床判断基礎論
回数(単位)	7.5回(テストを含む) (1単位15時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	1. 患者の「からだ(症状・病態)」について、看護形態機能学の視点から説明できる 2. 看護形態機能学の知識を活用し、各機能障害から出現する症状や薬剤の効果など関連付けて考えることができる
関連科目	看護形態機能学 病態生理学 薬理学 疾病論 基礎看護技術
学習内容	<p>◆以下の疾患・症状がある患者の事例を通し、症状や薬剤の効果などについて看護形態機能学の知識を関連させ、個人ワークを基にグループで学びを共有する。 【演習:グループワーク】</p> <p>事例) <ul style="list-style-type: none"> ・心不全による浮腫がある患者 ・高血圧による脳出血の患者 ・下痢による脱水のある患者 ・大腿骨頸部骨折による深部静脈血栓症の患者 など・・・ </p> <p>◆臨床判断モデルとは</p> <p>◆臨床判断気づくトレーニング(DVD)</p>
授業時間外学習(事前・事後)	看護形態機能学を基にした事例課題があります。
評価方法	100点満点(レポート提出にて評価)
教科書	解剖生理学 看護形態機能学 看護につなげる形態機能学 病態生理学 薬理学
参考文献	
講師のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・事例をもとに、症状のメカニズムと使用されている薬剤との関連を、既習科目である看護形態機能学、病態生理学、薬理学などを活用し理解を深めます。この学びは、臨床判断における基礎的知識となるものです。 ・学習していく過程においては、既習科目の活用の仕方や学習方法も学んでいきましょう。

区分	専門基礎分野
授業科目	公衆衛生学
回数(単位)	8回 + テスト1回 (1単位15時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	公衆衛生学は社会集団を対象とした人々の健康な生活の保全を目的とし、個人または集団で疾病が発生する条件や人々の健康保持、増進のための実際的な活動を考える学問です。本講義では、個人や社会集団の健康に影響する様々な問題に関する授業を展開し、それらについて自らの力で考え得ることを目標とします。
関連科目	在宅看護概論
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の概念(公衆衛生の意義、歴史、健康日本21、健康増進法等) 2. 環境保健(地球環境汚染、環境保全、公害、廃棄物等) 3. 国民栄養と食品保健(食事摂取基準、国民健康・栄養調査、食中毒、食品衛生法等) 4. 人口統計(人口静態・動態統計、疾病統計) 5. 疾病の疫学と予防(予防医学、疫学、感染性、非感染性疾病の疫学と予防) 6. 公衆衛生活動の実際(産業保健、学校保健、老人保健、国際保健等) 7. 保健医療論(保健・医療・福祉の資源、地域保健、社会保障制度等)
授業時間外学習(事前・事後)	
評価方法	定期試験を実施する。評価は定期試験の成績、授業の出席状況、受講態度を総合的に判断して決定する。(100点満点)
教科書	健康支援と社会保障制度② 公衆衛生学(メヂカルフレンド社)、プリント配布
参考文献	「国民衛生の動向」(厚生統計協会)
講師のコメント	授業は主にスライドにより行う。 講義終了後10分程度教室にて質問を受け付ける。 講義で利用した配布資料等について30分程度復習し、要点をノートにまとめ、理解すること。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護学概論
回数(単位)	15回(テスト1回を含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の歴史・定義・法律・看護理論を知る 2. 看護の対象の捉え方がわかる 3. 健康とは何かを考える 4. 看護の目的・機能・役割の実際を知る 5. 自己の看護観を述べることができる
関連科目	各看護学概論
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護とは(看護の定義 法律 歴史) 2. 看護の対象(対象の理解と健康の捉え方) 3. 看護の機能と役割(看護におけるチームアプローチと看護の継続性についても) 4. 看護実践の場(病院の機能と役割) 5. ナイチンゲール「看護覚え書」を読む(看護のあり方、看護師について考える) (演習:ジグソー法によるグループワーク) 6. 看護について～理論家の考える看護とは～(演習:ジグソー法によるグループワーク) ＜ヘンダーソン・ペプロウ・ロイ・オレム・ワトソン＞
授業時間外学習 (事前・事後)	<p>「看護覚え書」をグループで抄読会をするため、該当の章を事前に読んで参加してもらいます。</p> <p>最終レポートでは、「看護の基本となるもの」についても読み、これからどのような看護をしていきたいのかを考えてもらいます</p>
評価方法	筆記試験/課題提出 (100点)
教科書	<p>看護学概論 基礎看護学①(メディカ出版)</p> <p>看護覚え書(現代社)</p>
参考文献	<p>看護の基本となるもの(日本看護協会)</p> <p>ワークブックで学ぶナイチンゲール「看護覚え書」(メヂカルフレンド社)</p> <p>看護職の基本的責務(日本看護協会出版会)</p>
講師のコメント	<p>いろいろな人の意見をよく聞き、意見交換することで、自分の思考を深め、看護とは何かを考えてほしい。また、看護をする為に自分はどうすればよいのかイメージし、看護を追究できる人になってほしい。</p>

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術1
回数(単位)	4回(3講師でテスト1回を含む) 3講師で 1単位30時間
開講年次	1年次 前期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.看護における観察・記録・報告の意義と目的が理解できる 2.観察するための方法について理解できる 3.看護記録の種類と内容、および記録の原則について理解できる 4.看護における報告の内容と方法について理解できる 5.医療における安全・安楽の意義を解釈し、今後の看護につながる考えを持つことができる
関連科目	基礎看護学概論 医療安全
学習内容	<p>看護技術とは 看護技術の基本原則(安全・安楽・自立・個別性)と優先順位</p> <p>情報を伝える技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報と観察 <ul style="list-style-type: none"> ・観察の目的 ・情報収集・観察の方法・手段 ・情報の種類(S,O情報)と情報源 2. 記録と報告 <ul style="list-style-type: none"> ・記録の目的と意義 ・記載時の留意点と記録の取り扱い ・相手に伝わる報告の仕方ー報告の条件 <p>安心した療養を支える技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全な療養生活のために <ul style="list-style-type: none"> ・安全の意義と目的 ・患者の安全を阻害する危険因子 ・安全を守る援助ー抑制(適応と3つの要件) 2. 安楽ってどんなこと? <ul style="list-style-type: none"> ・安楽の重要性 ・安楽を阻害する因子 ・安楽への援助(身体的・精神的・社会的安楽)
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験+レポート(30点満点)
教科書	基礎看護学② 基礎看護技術 I (メヂカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるVol.1基礎看護技術(MEDIC MEDIA) 看護がみえるVol.4看護過程の展開(MEDIC MEDIA)
講師のコメント	看護技術は保健・医療・福祉の場において看護師が行う看護行為です。 看護独自の専門技術である看護技術の大前提となる原則について学び、今後の学びの基本としていきましょう。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術1
回数(単位)	4回 +3講師でテスト1回 3講師で 1単位30時間
開講年次	1年次 前期
学習目標	1.看護職として必要なコミュニケーションの知識・技術が習得できる
関連科目	基礎看護学概論 心理学 人間関係論 フィジカルアセスメント
学習内容	人間関係を成立・発展させるコミュニケーション技術 1. 医療(看護)におけるコミュニケーション ・コミュニケーションとはなにか(構成要素、特徴) ・コミュニケーションの種類(言語的・非言語的)(演習) ・医療におけるコミュニケーションの特徴 ～良好なコミュニケーションのためのスキル～(演習) 2. 自分の傾向を知ろう ・自己理解・他者理解 (演習) ・アサーティブコミュニケーション(演習)
授業時間外学習(事前・事後)	パーソナルスペースや立ち位置について事前学習
評価方法	筆記試験(30点満点)
教科書	基礎看護学② 基礎看護技術 I (メヂカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるVol.1 基礎看護技術(MEDIC MEDIA)
講師のコメント	コミュニケーションの授業では自分の傾向なども踏まえながら演習を取り入れて学んでいきます。これまでのコミュニケーションスキルを活かし、さらに医療現場でのコミュニケーションの特徴や患者の思いに寄り添った関わりができるよう、基礎的知識を学んでいきましょう。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術1
回数(単位)	7回+3講師でテスト1回 (3講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<p>「生きている」(意識・体温・呼吸・脈拍・血圧)を観察する技術をみにつけることができる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意識・体温・呼吸・脈拍(心拍)・血圧の変動や調節のメカニズムが説明できる 2. 意識レベルの評価方法が説明できる 3. 瞳孔・対光反射の観察方法が説明できる 4. バイタルサイン(体温・呼吸・脈拍(心拍)・血圧)測定における留意点が説明できる 5. 安全・安楽に配慮しながら、バイタルサインを正確に測定することができる
関連科目	看護形態機能学1・2・3 看護に生かす物理学 基礎看護学概論 フィジカルアセスメント 基礎看護学実習1-②
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「生きている」を観察する技術(バイタルサイン測定)の意義 2. バイタルサイン測定の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 意識(瞳孔・対光反射) 2) 体温 3) 呼吸 4) 脈拍・心拍 5) 血圧 3. バイタルサイン測定の実際(演習) <ol style="list-style-type: none"> 1) 瞳孔、対光反射の観察 2) 体温、呼吸、脈拍、心拍、血圧の測定 3) バイタルサイン測定の一連 4) バイタルサイン測定における、安全・安楽への配慮 4. 身体計測
授業時間外学習 (事前・事後)	事前:意識、体温、呼吸、脈拍・心拍、血圧に関する形態機能の復習 校内実習前:校内実習内容の予習 校内実習後:技術内容の反復練習
評価方法	筆記試験(40点)
教科書	基礎看護学② 基礎看護技術 I (メヂカルフレンド社)
参考文献	<p>人体の構造と機能① 解剖生理学 (医学書院)</p> <p>看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会</p> <p>看護がみえるVol.1 基礎看護技術(MEDIC MEDIA)</p>
講師のコメント	<p>・バイタルサイン測定は、患者の全身状態を知るためのベースとなる重要な技術です。確実な技術習得を目指して技術練習に励みましょう。</p> <p>・バイタルサイン測定一連の演習と技術試験は基礎看護技術8の時間枠であります。</p>

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術2
回数(単位)	7回+2講師でテスト1回 (2講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 前期～後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食生活・排泄への興味・関心が高まる 2. 食生活・排泄の意義が理解できる 3. 栄養のアセスメント方法が理解できる 4. 対象に応じた食生活への援助や食事介助の方法が理解できる 5. 食事介助の基本的な援助方法を習得できる 6. 食事介助を受ける対象の気持ちを知ることができる 7. 口腔ケアの基本的な援助方法を習得できる
関連科目	看護形態機能学4、生化学、栄養学
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「食べる」を支援する技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 食生活・栄養、口腔ケアの意義 2) 食生活・栄養、口腔ケアに関する看護の役割 3) 食生活・栄養、口腔ケアのアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1) 栄養状態 (2) 水分バランス (3) 食事内容と食習慣 (4) 食事動作 4) 食事援助・口腔ケアの実際 (校内実習) <ol style="list-style-type: none"> (1) 咀嚼・嚥下障害とケア (2) 食欲不振とケア (3) 食行動制限とケア (4) 口腔ケア 5) 非経口栄養法
授業時間外学習 (事前・事後)	事前: 食事に関する看護形態機能学の復習 校内実習前・後: 症例検討のレポート
評価方法	筆記試験+課題(50点満点)
教科書	基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(メヂカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるVol.1 基礎看護技術(MEDIC MEDIA)
講師のコメント	校内実習では、事例患者の食事内容を考え、安全においしく食べられる食事援助や口腔ケアの実際を学びます。 技術だけでなく、食事援助を受ける対象の気持ちも一緒に考えながら楽しく学習していきましょう。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術2
回数(単位)	8回(2講師でテスト1回含む) 2講師で1単位30時間
開講年次	1年次 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄のアセスメント方法が理解できる 2. 対象に応じた排泄の援助方法が理解できる 3. 原理・原則に沿って浣腸・導尿を実施することができる 4. 排泄介助を受ける対象の気持ちを知ることができる
関連科目	看護形態機能学4、生化学、栄養学
学習内容	<p>「トイレに行く」を支援する援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄の意義、排泄のアセスメント 2. 排便障害と援助 <ol style="list-style-type: none"> 1)便秘 2)下痢 3)便失禁 3. 排尿障害と援助 <ol style="list-style-type: none"> 1)頻尿・尿失禁 2)排尿困難・尿閉 4. 患者への排泄援助(便器・尿器、オムツ、ポータブルトイレ)(校内実習) 5. 排泄に関する処置(浣腸、導尿)(校内実習)
授業時間外学習(事前・事後)	<p>事前:排尿・排便に関する看護形態機能学の復習</p> <p>校内実習前:校内実習内容の予習 校内実習後:技術内容の反復練習</p>
評価方法	筆記試験+1枚ポートフォリオ(50点満点)
教科書	基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(メヂカルフレンド社)
参考文献	<p>看護がみえるvol.1基礎看護技術(MEDIC MEDIA)</p> <p>看護がみえるvol.2臨床看護技術(MEDIC MEDIA)</p>
講師のコメント	排泄行為は生命維持に欠かせない行為であり、人間のもつ基本的欲求のひとつです。対象の尊厳を護り、安全で、苦痛を最小限にする排泄援助とは何かを一緒に学んでいきましょう。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術3
回数(単位)	10回(2講師でテスト1回を含む) 2講師で1単位30時間
開講年次	1年次 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 清拭・更衣がもつ意義・意味を理解できる 2. 清拭・更衣が対象にもたらす影響を理解できる 3. 清拭・更衣を行う対象の状況を把握する方法を理解できる 4. 清拭・更衣援助の原理原則を理解することができる 4. 対象がにとって安全・安楽な心地よい援助を追究し理解することができる
関連科目	形態機能学4(お風呂に入る)、形態機能学1、基礎看護技術3(環境) 基礎看護技術4(活動)
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「身体をきれいにする」を支援する技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 清潔にすることの意味 2) 清潔の援助 <ol style="list-style-type: none"> ①頭皮・頭髪の清潔方法(演習:洗髪の基本動作) 洗髪による生理的影響 ②身体をきれいにする方法 入浴による身体への影響と効果 ③手浴・足浴の方法(演習:手浴・足浴) ④整容(演習:爪切り) ⑤粘膜のケア(演習:陰部洗浄) ⑥清潔援助に関する基本動作(事例検討) ⑦タクティールケア 2. 「身だしなみを整える」を支援する技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 衣生活 <ol style="list-style-type: none"> ①衣服を着る目的 ②療養に適した衣服 ③衣生活を調整する能力のアセスメント(事例検討) ④和式寝衣の寝衣交換(点滴中)の方法と留意点(演習:寝衣交換)
授業時間外学習(事前)	事前:形態機能学の復習、援助に対する手順書の作成
評価方法	筆記試験+課題(技術手順書作成等)(70点満点)
教科書	基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(メヂカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるVol.1 基礎看護技術(MEDIC MEDIA)
講師のコメント	事例検討やグループワーク、演習を通して、知識と技術をて学んでいきます。基本的な技術を学ぶだけでなく、演習での経験を通して、どうしたら患者さんに「気持ちよさ・心地よさ」を提供できるのかを考え、「また、あなたに援助して欲しい」と言っていただけの援助と一緒に学んでいきましょう。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術3
回数(単位)	5回 + 2講師でテスト1回 (2講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康生活の維持や回復のために、生活環境の果たす役割について理解できる 2. 生活環境の重要性について理解し、適切な援助を習得できる 3. 安全安楽なベッドの作成方法を習得できる
関連科目	看護に生かす物理学・看護形態機能学3・基礎看護学概論
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全で快適な環境を作る技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 環境とは 2) 環境に影響を及ぼす因子 3) 病棟・病室の環境 4) 環境を整える視点と調整方法(8つの視点) 5) 病室の環境整備(校内実習) 6) ベッドメイキング(校内実習)
授業時間外学習 (事前・事後)	講義前・後:看護覚え書の該当内容を読む 校内実習前:校内実習内容の予習 校内実習後:技術内容の反復練習
評価方法	筆記試験(30点満点)
教科書	基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(メヂカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるvol.1基礎看護技術(MEDIC MEDIA) 看護覚え書(現代社) ワークブックで学ぶナイチンゲール『看護覚え書』(メヂカルフレンド社)
講師のコメント	グループワークや校内実習を通して学んでいきます。人間と環境は互いに影響をします。病人が快適な日常生活を過ごすことができるよう、病床の環境を整える方法を一緒に学んでいきましょう。 ※臥床患者のリネン交換技術試験あり(基礎看護技術8の時間枠)

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術4
回数(単位)	15回 (テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動と休息の意義および重要性について理解する 2. 廃用症候群のリスクアセスメントをし、予防の援助を理解する 3. 運動機能の維持・回復のための援助を理解する 4. 体位変換、移乗・移動時における基本的な援助方法を理解し、技術を習得する 5. 安楽保持の援助を理解する 6. 休息と睡眠が人間の生命に与える影響を理解する 7. 疾病や障害を持つ人の不眠の実態と要因を考慮することができる 8. 休息・睡眠への具体的な援助・方法を考えることができる
関連科目	看護に生かす物理学 看護形態機能学3・4
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「活動」を支援する技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動の意義、効果 2) ADL 3) ボディメカニクス 4) 活動・運動における看護師の役割 5) 運動機能のアセスメント 6) 廃用症候群のリスクアセスメントと予防、ポジショニング(校内実習) 7) 自動・他動運動、ROM訓練・筋力増強訓練 8) 体位変換(校内実習) 9) 移乗・移送(校内実習) 10) 歩行の援助(校内実習) 2. 「休息」を促す援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 睡眠の生理 2) 睡眠不足が心身に及ぼす影響 3) 睡眠障害のある患者への援助 4) ケーススタディ: 不眠の患者への援助(演習: ペーパーペイシエントを用いたグループワーク) 5) 休息を促す援助(罨法)(校内実習)
授業時間外学習 (事前・事後)	<p>校内実習前: 校内実習内容の予習</p> <p>校内実習後: 校内実習内容のレポート・技術内容の反復練習</p>
評価方法	筆記試験+課題レポート(100点満点)
教科書	<p>基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ(メヂカルフレンド社)</p> <p>基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(メヂカルフレンド社)</p>
参考文献	看護がみえるvol.1基礎看護技術(MEDIC MEDIA)
講師のコメント	活動では、校内実習を通し運動機能の低下した患者に対する援助方法の習得を目指します。安全・安楽に行えるよう反復練習を行い技術修得していきましょう。睡眠は事例の患者に対する睡眠の援助を考え発表してもらいます。睡眠への援助はたくさんあります。皆さんの自由な発想を楽しみにしています。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術5
回数(単位)	6回+2講師でテスト1回 (2講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染予防に必要な知識を習得することができる 2. 無菌操作を行うことができる 3. 呼吸を助ける援助方法を理解し、酸素吸入、吸引を実施することができる
関連科目	微生物学 看護形態機能学3
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚・創傷を守る技術 感染予防 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染とは 2) 感染予防の技術 3) 感染予防対策の基本 4) 感染における看護師の責務と役割 2. 呼吸を整える技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 効果的な呼吸方法(安楽な呼吸の体位・安楽な呼吸方法)(校内実習:体位ドレナージ) 2) 排痰を促す方法(校内実習:一時的吸引(口腔内・鼻腔内)) 3) 吸入の目的・方法・留意点(校内実習:ネブライザー吸入) 4) 酸素吸入の目的・方法・留意点(校内実習:酸素吸入・酸素ポンベの取り扱い)
授業時間外学習 (事前・事後)	<p>校内実習前:校内実習内容の予習</p> <p>校内実習後:校内実習内容のレポート・反復練習</p>
評価方法	課題+筆記試験(40点満点)
教科書	<p>基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ(メヂカルフレンド社)</p> <p>基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(メヂカルフレンド社)</p>
参考文献	<p>看護がみえるVol.1 基礎看護技術(MEDIC MEDIA)</p> <p>看護がみえるvol.2 臨床看護技術(MEDIC MEDIA)</p>
講師のコメント	診療に伴うさまざまな看護技術について、事例検討やグループワーク、校内実習を通して学んでいきます。患者に安全・安楽な技術が提供できるように根拠をおさえながら一緒に学んでいきましょう。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術5
回数(単位)	9回(2講師でテスト1回を含む) 2講師で1単位30時間
開講年次	1年次 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 包帯法の目的・方法・留意点を理解し、基本的な巻き方を実施することができる 2. 洗浄(胃・膀胱)時の看護師の役割を理解する 3. 検査の目的および看護の役割を理解し、方法(静脈血採血)を身につける 4. 診療のプロセスにおける看護師の役割を理解する
関連科目	微生物学 看護形態機能学3
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚・創傷を守る技術 創傷管理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 創傷管理とは 2) 創傷の観察 3) 創傷処置 包帯法の目的・方法・留意点(校内実習:包帯法) 2. 検査・治療・処置の援助技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 診察 ①診察のプロセス②診療における看護の役割③診察時の援助 2) 洗浄(胃・膀胱)の目的・方法と看護師の役割 3) 検査 ①生体検査(画像検査・心電図) ②検体検査(尿・便・喀痰・穿刺・血液 校内実習:採血法)
授業時間外学習 (事前・事後)	<p>校内実習前:校内実習内容の予習</p> <p>校内実習後:校内実習内容のレポート・反復練習</p>
評価方法	筆記試験(60点満点)
教科書	<p>基礎看護学② 基礎看護技術 I (メヂカルフレンド社)</p> <p>基礎看護学③ 基礎看護技術 II (メヂカルフレンド社)</p>
参考文献	<p>看護がみえるVol.1 基礎看護技術 (MEDIC MEDIA)</p> <p>看護がみえるvol.2 臨床看護技術 (MEDIC MEDIA)</p> <p>看護に生かす検査マニュアル (サイオ出版)</p>
講師のコメント	診療の補助に必要な看護技術について、グループワークや校内実習を通して学びます。安全・安楽で、患者が安心できる援助のためにはどのような看護が必要か、根拠を踏まえながら一緒に学んでいきましょう。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術6
回数(単位)	15回 (テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における教育支援の必要性と方法を理解する 2. 看護過程の考え方を知り看護過程展開技術を理解する 3. ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメントの視点を理解し、紙面患者の看護過程展開をする
関連科目	教育学 成人看護学概論 基礎看護技術1
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を展開する技術程 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護過程とは 2) 看護過程の基本的構成要素 3) ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメントの視点 4) 紙面患者の看護過程展開(演習:事例学習 グループディスカッション) 2. 健康を支援する技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康支援の対象 2) 健康支援の場 3) 健康支援の進め方(演習:ロールプレイ)
授業時間外学習(事前・事後)	学習内容2は、毎回、授業時間外で課題に取り組みます。
評価方法	ペーパーテスト+演習課題(100点満点)※課題の期限遅れは原則0点となります。
教科書	基礎看護学② 基礎看護技術 I (メヂカルフレンド社) ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践看護アセスメント(ヌーベルヒロカワ)
参考文献	看護過程展開関連各種 雑誌(疾患別看護過程が掲載されているもの)
講師のコメント	各自で事前課題に取り組み、授業では意見交換をし個々の疑問・学びを共有しながら皆で解決し理解を深め力をつけていきます。また、看護過程展開技術力の習得に向け、自己課題をその都度明確にして授業に臨んで下さい。雑誌などから他の事例の看護過程の一連を読み解いておくことをお勧めします。紙面患者(事例)に関する病態や看護などの基礎知識は、あらかじめ学習しておいて下さい。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術7
回数(単位)	7.5回(テスト含む) (1単位15時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	「命をすぐための技術」「最期に寄り添う援助技術」を身に着けることができる 1. 救急法について知り、救急蘇生法(一次的救命処置)を習得する 2. 臨終前後の患者および家族の看護を理解する 3. 終末期にある患者とその家族の現状を知る 4. 自身の生や死に対する価値観や死生観とは何かを考え、それを述べるができる
関連科目	看護形態機能学1 医療安全2
学習内容	命を救うための技術 1. 救命救急処置技術 1) 救急医療と救急看護 2) 救急医療体制 3) 一次救命処置(BLS): 校内演習 4) 窒息の解除: 校内演習 2. 最期に寄り添う援助技術 1) 終末期医療の歴史と近年の動向: エンド・オブ・ライフ・ケア 2) 生きる意味、死ぬ意味: 死生観 3) 臨終時の看護 4) 終末期(エンド・オブ・ライフ)にある患者・家族 5) 尊厳死あるいは延命の中止 6) 脳死・臓器移植/安楽死
授業時間外学習 (事前・事後)	事後: 課題レポートがあります。
評価方法	筆記試験・課題レポート あわせて 100点満点
教科書	基礎看護学② 基礎看護技術 I (メヂカルフレンド社) 基礎看護学③ 基礎看護技術 II (メヂカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるVol.1 基礎看護技術(MEDIC MEDIA) 看護がみえるvol.2 臨床看護技術(MEDIC MEDIA)
講師のコメント	終末期の看護では今の自分の死生観を整理するため、手記や文献を読んで広く考えを持てるようにしておきましょう

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術8
回数(単位)	22.5回(テスト含む) (1単位45時間)
開講年次	1年次 前期～後期
学習目標	<p>1. 基礎看護技術で学んだ知識と技能を行動化し、基本的な援助技術を習得する</p> <p>2. 看護者と患者役の双方を体験することにより援助技術の理解を深め看護に必要な態度を習得する</p>
関連科目	基礎看護技術1・2・3・4・5
学習内容	<p>事例設定による校内実習及び評価 【校内実習】</p> <p>①臥床患者のリネン交換(体位変換含む)</p> <p>②バイタルサイン測定(体温・脈拍・呼吸・血圧)</p> <p>③臥床患者の洗髪</p> <p>④臥床患者の全身清拭・寝衣交換</p> <p>⑤一時的導尿</p> <p>⑥浣腸</p> <p>◆無菌操作・滅菌手袋・ガウンテクニック(校内実習)</p> <p>◆コミュニケーション(事例をもとに検温場面の実践 校内実習)</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	技術テストに向けての自己練習
評価方法	①～⑥の項目について技術テスト(100点満点)
教科書	<p>基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ(メヂカルフレンド社)</p> <p>基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(メヂカルフレンド社)</p>
参考文献	<p>看護がみえるVol.1 基礎看護技術(MEDIC MEDIA)</p> <p>看護がみえるVol.2 臨床看護技術(MEDIC MEDIA)</p>
講師のコメント	技術テストが主となる科目です。十分に自己練習を重ねた上で技術テストを受けられるようにして下さい。

区分	専門分野
授業科目	地域・在宅看護基礎論
回数(単位)	7.5回 (1単位15時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の多様な暮らしを知り、人々が「暮らす」とはどのようなことを考えることができる。 2. 地域特性を知り、生活環境が健康に与える影響を理解する。 3. 地域で暮らす人々がどのように支え合って生活しているのかを考えることができる。
関連科目	社会学 母性看護学概論 小児看護学概論 成人看護学概論 老年看護学概論 地域・在宅看護方法論1～4
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の人々の暮らし 2. 地域で暮らす人々と地域とのかかわり 3. 地域の生活環境が健康に与える影響 4. 支え合って生きるとは 5. その人らしい「暮らし」とは <p>1～5は演習を主とする (フィールドワーク前後のグループディスカッション、グループワーク)</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	フィールドワーク(自己の居住地(地域)を探索し、地域の人々の様子を観察したりインタビューをする。人が生活すること、人が暮らすことに触れながら、「その人らしく生きる」と探求する。また、互助の視点から自己にできることを考える。
評価方法	レポート(100点)
教科書	地域・在宅看護論1 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	フィールドワークではチャンスを逃さずに積極的に地域の人々へのインタビューをしましょう。この体験は、礼儀をわきまえること、言葉遣い、他者とのコミュニケーション方法を意識しながら、勇気をもって地域に繰り出してください。人が「暮らす」ことに触れ、「その人らしく生きる」こととはどのようなことか一緒に考えていきましょう。

区分	専門分野
授業科目	成人看護学概論
時間(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期 ~ 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の特徴について理解する 2. 成人期にある人の生活習慣にかかわる健康障害とその予防について理解する 3. 成人期にある人の職業・労働にかかわる健康障害とその予防について理解する 4. 成人期にある人を看護するための基本的な考え方を理解する 5. 各病期(急性期・回復期・慢性期・終末期)における対象の特徴と看護を理解する
関連科目	基礎看護学概論 公衆衛生学
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の身体的・精神的・社会的特徴 (事例検討) 2. 成人期の生活習慣における健康問題と予防(グループディスカッション) <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康を阻害する生活背景と健康障害(身近な成人へのインタビュー) 2) 健康を促進する生活習慣(身近な成人へのインタビュー) 3. 職業生活における健康問題と予防(事例検討) 4. 成人保健の動向(事例検討) <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健・医療・福祉政策と課題 2) 成人保健指導 5. 成人に有用な看護理論 (グループワーク) 6. 各病期(急性期・回復期・慢性期・終末期)の看護(ジグソー法) <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の身体的・精神的・社会的特徴 2) 看護の方向性・ポイント
授業時間外学習(事前・事後)	身近な成人期にある人の健康問題について問題抽出と解決策についてまとめる。成人の各病期に活用できる中範囲理論についてまとめる。
評価方法	筆記試験(70点) 課題(30点)
教科書	成人看護学 成人看護学概論(南江堂)
参考文献	
講師のコメント	成人期にある人の特徴と看護に必要な考え方を学びます。成人期の人々を取り巻く環境や置かれる状況を理解するために、日々の中で社会問題に目を向けたり、家族はじめ身近な人々の生活習慣を注視したりその背景を想像し、対象の暮らしをイメージしながら学習して下さい。

区分	専門分野
授業科目	成人看護学方法論1
時間数	8回（4講師でテスト1回含む） 4講師で1単位30時間
開講年次	1年次後期
学習目標	1. 循環機能障害をもつ成人の特徴と看護の方法を理解する
関連科目	病態生理学 疾病論3
学習内容	1. 循環機能障害をもつ成人の看護 1) 循環機能障害と日常生活 2) 循環機能障害の把握と看護 呼吸困難、胸痛、動悸、ショック 3) 循環機能障害の検査治療に伴う看護 心臓カテーテル検査をうける対象の看護、開心術後の看護 4) 循環機能障害をもつ対象の看護 急性の経過をたどる対象の看護(心筋梗塞) 慢性の経過をたどる対象の看護(心不全)
授業時間外学習 (事前・事後)	関連科目の既習内容について、事前に復習をして臨む
評価方法	筆記試験(50点)
教科書	機能障害からみた成人看護学① 呼吸機能障害/循環機能障害(メヂカルフレンド社) 成人看護学3(循環器) (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	成人看護学方法論1
回数(単位)	7回 +4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次後期
学習目標	1. 呼吸機能障害をもつ成人の特徴と看護の方法を理解する
関連科目	病態生理学 疾病論1
学習内容	<p>1. 呼吸機能障害をもつ成人の看護</p> <p>1)呼吸機能障害と日常生活</p> <p>2)呼吸機能障害の把握と看護 呼吸困難、疼痛、倦怠感</p> <p>3)呼吸機能障害の検査治療に伴う看護 ドレナージを受ける対象の看護、人工呼吸装着の看護、麻薬使用時の看護 放射線療法を受ける対象の看護</p> <p>4)呼吸機能障害をもつ対象の看護 急性の経過をたどる対象の看護(肺切除術) 終末の経過をたどる対象の看護(肺がん)</p> <p>2. 終末期にある患者の看護(緩和ケア)</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	関連科目の既習内容について、事前に復習をして臨む。特に、呼吸のしくみについて復習しておきましょう。
評価方法	筆記試験(50点)
教科書	機能障害からみた成人看護学① 呼吸機能障害/循環機能障害(メヂカルフレンド社) 系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	老年看護学概論
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の特徴(身体的・精神的・社会的)について理解する 2. 高齢社会の現状を知り、高齢者を支える医療・保健・福祉制度について理解する 3. 老年看護を実践するための理論・考え方を知る
関連科目	社会学 社会福祉学 在宅看護概論
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者とはなにか <ol style="list-style-type: none"> 1) 老年期とは 2) 老化の本質 3) 老年期の身体的・精神的・社会的特徴 (演習: 高齢者模擬体験) 4) 老化と老年病 5) 高齢者の性 6) 高齢者を取り巻く社会 2. 高齢社会の保健医療福祉の動向 3. 高齢者の人権と倫理問題 4. 老年看護の基本 5. 治療を受ける高齢者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物療法を受ける患者への援助 2) 検査を受ける患者への援助 3) 手術を受ける患者への援助 4) 入院生活への援助 5) 退院に向けての援助 6) 老年病と看護
授業時間外学習 (事前・事後)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者理解のために①身近な高齢者へのアンケート実施②新聞・ニュースなどから現代の高齢者問題を取り上げレポートする ・生活者の視点から老年期の身体的特徴をグループでまとめ発表するための学習活動
評価方法	筆記試験(70点)+課題(30点)
教科書	ナースンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害(メディカ出版) 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)
参考文献	
講師のコメント	高齢社会において高齢者を理解することは重要です。老年期を体験していない皆さんが高齢者を理解することは難しいことですが、身近な人や高齢者模擬体験、文献学習などを通して、老いについて一緒に学びましょう。高齢者のもつ力に着目して「その人らしい生の完成」「QOLを目指した看護」について考えましょう。

区分	専門分野
授業科目	精神看護学概論 1
回数(単位)	7.5回(テストを含む) (1単位15時間)
開講年次	1年次 後期
科目目標	人間関係を通して自己の理解、精神の成り立ち、看護のあり方を考える。
関連科目	形態機能学1 心理学 社会学
教育内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学で学ぶこと <ol style="list-style-type: none"> 1)心を病むことと精神障がい 2)精神的健康の保持としての精神保健 2. 精神のとらえ方 <ol style="list-style-type: none"> 1)精神病を理解するための脳の知識 2)認知機能と精神基盤 3)精神病の理解 4)心理学から心をつかえる 3. 家族と精神の健康 <ol style="list-style-type: none"> 1)家族とは 2)夫婦関係と精神 3)親子関係と心の成長 4. 精神看護の理念 <ol style="list-style-type: none"> 1)精神保健福祉の理念と看護の責務 2)精神保健医療の変遷と現在の課題 3)精神保健と権利擁護
授業時間外学習 (事前・事後)	2では脳の機能と働きを、3では社会学の家族を予習してきてください。
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	精神看護学① 精神看護の基礎 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	形態機能学ではつながらなかった知識をグループワークを通してつなげる作業があります。

区分	専門分野
授業科目	医療安全1
回数(単位)	7.5回(テスト含む) (1単位15時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故のメカニズムを知る 2. 医療安全の観点から危険を認識する能力を持つことができる ①診療の補助の事故防止として与薬時の医療安全上のポイントが分かる ②療養上の世話の事故防止について考えることができる ③インシデント・アクシデントレポートの意義がわかる 3. 医療安全の視点からコミュニケーションのあり方について考えることができる 4. 組織的な安全管理体制への取り組みを知る
関連科目	
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の経緯 2. 医療事故の定義 3. 人間の行動とヒューマンエラー 4. 看護事故の構造と事故防止の考え方 診療の補助の事故 療養上の世話の事故 【演習：インシデントレポートを書きグループワーク】 6. 医療安全とコミュニケーション 7. 組織的な安全体制への取り組み
授業時間外学習 (事前・事後)	臨床実習場面からインシデントレポートを記載し、事例分析(要因分析)と具体的な医療事故の牛対策について考えてもらいます。その後、学生間で学びの共有をします。
評価方法	筆記試験(課題を含む)(100点満点)
教科書	看護の統合と実践2 医療安全 (医学書院) 医療安全ワークブック (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	医療事故のメカニズムを知り、危険を予防するための知識を学びます。実習に直結する内容ですので、主体的に学んでいきましょう。

授業科目	特別講義(安城更生病院・看護部概要説明)
時間(単位)	2時間
開講年次	1年次 5月
ねらい	基礎看護学実習1-①を6月中旬に予定をしています。この実習は看護学生として初めて現場に臨む実習です。それに向け5月以降複数回、実習オリエンテーションを実施します。初回は、安城更生病院 副看護部長より実習場所である安城更生病院/看護部の概要をお話ししていただき、実習に向け、病院・看護部について理解し、看護学生としての心構えがもてるような機会としたいと考えています。
事後課題	レポート提出

授業科目	特別講義(厚生連球技大会参加・応援)
時間(単位)	半日程度
開講年次	1年次 11月
ねらい	愛知県厚生連では、8つの病院及び3つの学校の親睦と交流を目的にバレーボール・野球の大会を毎年11月頃開催している。更生看護専門学校は、バレーボール部が施設を代表し大会に参加する。 厚生連看護専門学校の学生は、在学期間を経て、8病院いずれかの病院で働く。入学して半年が経過した。球技大会に参加することを通し、愛知県厚生連にはどのような病院があるのか興味をもち病院を知り、愛知県厚生連に所属する学生であるという意識を高める機会としたい。
備考	

授業科目	特別講義(在宅療養者の生活と支えるシステム)
時間(単位)	2時間
開講年次	1年次 3月
ねらい	在宅医療と障害福祉サービスを受けながら生活を送る障害者の生活と生活を支えるシステムについて理解を深める 地域・在宅看護基礎論において、地域での多様な暮らしについて学んだ。2年生では、地域で暮らす人たちの健康と暮らしを支える看護の理解をするための講義が開始となる。地域で障害を抱えながら暮らす当事者の話を聞きながら、対象について理解し、支えるシステムについて知る機会としたい。
事後課題	レポート提出

授業科目	特別講義(DVIについて)
時間(単位)	2時間
開講年次	1年次 3月
ねらい	暴力は、その対象者の性別や加害者被害者の間柄を問わず、許されるものではなく、人権を著しく侵害する行為です。 専門学校在学中に皆さんは、青年期から成人期初期へ移行していきます。この時期は、生活の在り方や活動範囲が大きく変化し、いろいろな人との出会いがあります。 暴力が自身に起こりうることとしてとらえ、自分だけでなく周りの人を大切にする関係が築けるよう、DVについて知る機会としたい。
事後課題	レポート提出